


親の会だより

第101号 発行日 令和3年2月10日
発行 岩手県ことばを育む親の会 
会長 主濱 友子
事務局 盛岡市立桜城小学校きこえとことばの教室内

日頃から岩手県ことばを育む親の会活動にご協力いただき有難うございます。今年度は新型コロナウイルス感染症により、教室の運営や親の会活動に影響が出ておりますが、その様な中でも、多くの皆様のご協力で10月10日には「親の会だより」100号記念号を発行することができました。

本号では、その伝統を引き継ぐ新たな101号として令和2年度の事業等を振り返ってみます。

すぐには前の日常には戻りませんが、親の会として新型コロナウイルスを正しく恐れながらも、今できることを精一杯行ってまいりたいと思っております。これからもご協力をよろしくお願いいたします。

●お知らせ これまで種々ご準備をいただきてまいりました令和3年度親子合宿研修会（サマーキャンプ in カシオペア）につきまして、現在の新型コロナウイルス感染症の全国的なまん延拡大及び収束が見通せない状況下では、特にも宿泊を伴う催事につきましては、参加者の安全を確保したうえでの開催は難しいことから、県親の会といたしましては、誠に残念ではありますが中止せざるを得ないと判断いたしました。これまで1年間の延期を含めて準備にご苦労をおかけした実行委員会及び関係者の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

なお、令和3年度開催親の会大会「釜石・大槌大会」については、現在開催に向けて準備を進めているところです。詳細については年度内に各支部へご案内致します。

令和2年度 岩手県障がい保健福祉施策に関する意見提出

例年、県障害保健福祉課主催の障がい者関係団体との意見交換会が開催されてまいりましたが、今回は、「コロナ」禍のため書面での提出及び回答となりました。令和2年12月上旬に県からいただいた回答は次のとおりです。

1 通級指導教員の基礎定数化と措置と、担当教員の配置について

早期に定数化の推進を図れるようにお願いします。また、指導教員には、研修経験者や経験豊富な人材の配置をお願いします。（基礎定数化とは、通級する子ども13名に1名の教員を配置するという基準を法制化すること。2017年度から10年かけて整備）

<学校教育課> 国の動向に沿った形で進めていきたいと考えております。また、指導教員については、研修経験を含めた総合的な観点から任命・配慮してまいります。

2 幼児のための教室設置と教育の充実について

幼児教室設置市町の設置効果を未設置町村にご紹介いただき、県内全ての市町村に幼児教室の設置が促進されますよう、引き続きご支援をお願いします

<学校教育課> 県教委では、総合教育センターに専門的な研修講座を設置し、教室担当者や、今後担当者となる方に活用いただいております。今後も適切な相談・指導が受けられるよう、必要に応じて連携・支援を行って参ります。

3 巡回指導について

巡回のための時間も考慮いただき、指導人数にみあった担当教員の適正な配置をお願いします。また、巡回先で効果的な指導が行われるように、指導室や教材等の環境整備をお願いします。

<学校教育課> 通級指導教室は、自校通級、他校通級、巡回指導の中から、市町村が実態に応じた形態を選択や組み合わせることにより進めているところです。今後も、学びの場の確保や教材の活用など巡回指導の在り方を含め、適切な指導に向け必要に応じて支援を行って参ります。

4 特別支援教育に関わる担当教員の更なる研修について

担当教員の専門性や指導力を高めるための研修の継続と充実をお願いします。また、特別支援教育への理解と適切な指導・支援がさらに充実するよう、全教職員対象の研修が一層図られるようにお願いします。

<学校教育課> 県教委では、各校種の教員に対して、特別支援教育に関する研修を進めております。今後ともニーズに応じた研修内容や方法の工夫を図りながら継続して取り組んで参ります。

5 きこえとことばの教室の環境整備について

通級指導教室への普通教室と同様のエアコン設置をお願いします。また、タブレットやデジタル補聴システム（ロジャー）等の子どもの必要性に応じた設備の充実もお願いします。

<学校教育課> 教室の適切な運営には環境整備や設備の充実が必要であると考えております。学校や地域の実情を踏まえて対応できるよう必要に応じて市町村に情報提供を行って参ります。

6 幼稚園・保育園の先生、保健師の方々のための研修講座の充実について

健診時の早期発見は早期の支援につながります。毎年「幼児期の言語教育研修講座」を開催していますが、「幼児教室」「きこえとことばの教室」の周知と運営・推進について今後ともご支援をお願いします。

<学校教育課> 県教委では、保健福祉部と連携して周知を図っており、今後とも貴団体の研修会への協力や、幼児期及びきこえとことばの教室に係る特別支援教育の充実を図って参ります。

7 障がい者手帳が交付されない「難聴」や「吃音」等の子ども達への環境の充実と助成について

就労について、早い段階から情報収集と就労までの環境の充実をお願いします。また、軽度・中等度難聴児への補聴器購入の公費による助成を今後とも対応していただくようお願いします。

<学校教育課> 難聴、吃音の生徒の就労については、在籍高等学校、特別支援学校において、本人および保護者の希望を把握し、圏域ネットワーク会議等を通じて関係機関と連携し支援を行って参ります
<障がい保健福祉課> 難聴児補聴器購入助成事業は、補装具費の給付対象とならない方への支援として今後とも継続して参ります。修理代に係る助成については、令和元年10月から助成対象に含めております。

8 難聴児の早期支援に向けた保健・医療・福祉・教育の連携について

厚生労働省と文部科学省が連携し「保健・医療・福祉・教育の連携」について取り組みを始めています。本県においても新生児聴覚検査の実施率の向上に向けた取り組みをお願いします。

<子ども子育て支援課> 県では、新生児の聴覚検査について、市町村に対し費用の軽減について働きかけを行い、令和2年10月から、県内全ての市町村において公費助成が開始されたところです。本検査は、任意の検査であることから市町村の産婦人科を通して、妊婦や家族に対して、説明用リーフレットを配布し周知に努めるなど、検査の実施の向上に取り組んでまいります。

9 新型コロナウイルス感染症に対応した指導方法等について

消毒と換気のほかフェイス(マウス)シールドや飛沫防止ガードなど、それぞれ工夫をしながら指導しておりますが、今後とも対応設備の標準化や感染予防に配慮した指導方法の整備等をお願いします。

<障が保険福祉課> きこえ・ことば・LD・幼児教育の各教室は、各市町村が開設しているもので、教室ごとに人数や構造、対象児童の基礎疾患の有無等が異なることから、感染防止を図るための対応設備の標準化や指導方法を統一することは困難であると考えます。なお、各教室で取り組まれてきた消毒や換気、フェイスシールド、飛沫防止ガードなどは、一定の有効性があることから、各市町村に対し、こうした対策を徹底されるよう周知を図っていきます。

「すっぴんの会」

これまで18回にわたり毎年開催してきましたが、今年度はコロナの影響で中止といたしました。悩みを相談したり、先輩の体験を聞いたり、貴重な情報交換の場でもありましたので、とても残念です。今回は誌上で吃音について考えてみました。

知っていましたか？ 吃音とは・・・

連発（同じ音の繰り返し）、伸発（引き延ばし）、難発（音がつまって出ない）等の言語症状があること、脳、発話器官等、器質的に明確な根拠は認められないこと、本人が流暢に話せないことに不安をもち、悩み、話すことを避けようとする、等の状況がそろったときに吃音と言われることが多い。吃音の原因は現在までのところ分かっていない。吃音の問題は、症状だけでなく、流暢に話せないことを予期し、話すことに不安をもち、回避するといったことがあげられる。（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の資料から）

吃音について正しい理解を！

吃音のある子・周りの子の本音（思いには個人差がある）

- ・ 答えが分かっているのに、ことばが出ない時「分かりません」ということがある。
- ・ 緊張するかどうかに関係なくどもってしまう。
- ・ 本当は挨拶したいのに、うまくことばが出てこない。
- ・ どもりそうな気がして他のことばに言い換えた時、自分のことばで言えなくて悔しい。



*吃音のある高校生

小学生の頃から、発表の時は足が震えるほど緊張していました。今も、「予期不安に悩まされるのは、小さいころからの不安の積み重ねが原因になっている気がします。クラスの皆に、吃音の事を知ってもらえていれば、もっと気持ちが楽だったと思うのですが、あの頃の僕は、誰にも相談できませんでした。

*吃音の事を勉強した高校生の場合

友達にも吃音の子がいました。しかし、その時、私は吃音のことを知らなかったもので、わざとしているのかと思って、その友達に「ふざけないでちゃんと話して」と言ってしまいました。今は本当に悪い事をしてしまったと思っています。その子は他の子からも、私が言ったようなことを言われていたし、笑われて真似されていました。本当につらかったらと思う。いつかその子に謝れたらいいなと思います。

Q&A

Q 本人に吃音を意識させない方がいいと聞きました。吃音の事を話題にしても大丈夫ですか？

A 吃音の話題をタブーにすると、困っている事やその思いを一人で抱え込ませてしまいます。吃音を「悪い事やダメな事だと意識させない事」が大切であり、そのためにも日頃から何でも吃音について話し合ひましょう。周りの人が吃音を受け入れてくれていると本人が感じられる環境が、子どもの健やかな成長を下支えします。吃音の話をする事で、症状が重くなることはありません。

Q どうして吃音になるのですか？

A 吃音になりやすい素因や他の複数の要因が、複雑に絡み合って起きると考えられます。親の接し方やストレス、家庭環境が原因で吃音になるという考えは誤りです。

（ 広島市言語・難聴児育成会 きつおん親子カフェ リーフレットから抜粋）

トイ・ドネーション



NPO 法人全国ことばを育む会では、米国の玩具メーカー日本法人である「ハズプロジャパン合同会社」から、トイ・ドネーション（販売会社からのおもちゃの返品を廃棄せずに必要としている子ども達に無料で届ける事業）を受け、希望する県に配布する事になりました。

岩手県では幼児・低学年を対象とした玩具を数種類ずつ選択、県内の幼児教室を併設している「ことばの教室」設置小学校13教室を対象に、12月に玩具を寄贈いたしました。

全国ことばを育む会会報「ことば」についてのアンケートから・・・ (平成2年11月現在)

会報「ことば」は、県内の「通級指導教室」設置校に配布しています。県内全体として、会員数が多い割には「ことば」誌の購読が少なく、限られた中での配布となっております。各教室ではどのように、会員又は担当者に読んでいただいているのか、又は、どの様な活用方法があるのか等、より効果的な活用について県内の28支部にアンケートにご協力いただきました。



会報「ことば」は、

☆どんなことに役立ち、またその活用方法は

- 1、親の会の在り方や、大切さ、意義について学ぶことができる。教室の有用性を伝えることができた。
- 2、構音以外の、他の障がいをもつ保護者の思いなどを知ることができる。経験談等を要約して、教室通信で紹介している。
- 3、新情報をキャッチし、皆に伝講している。会員の啓発、研修に役立っている。
- 4、個別の指導計画等、情報を知ることができ参考になった。
- 5、教室運営や様々な環境における取組や要望は全て今後の活動に役立つものと思う。
- 6、全国各地の取り組み、実践等参考になっている。制度の事も分かって助かる。

☆会員一人一人が見ることができる環境づくりとは

- 1、教室・支部通信で親の会行事や、来校時に会員に内容を伝え、配布している。
- 2、巡回教室は、保護者待合室が無いので、回覧方法か、印刷の上配布する。
- 3、全国的な組織を知らない人が多い。手に取って認知していただく事も必要。

アンケートを通して、校内通級や巡回校の保護者が読む機会が少ないことや、短期間で終了する子もいることから「ことば」を読んだことが無く、全国的な組織も知らずに退級する保護者がいることが分かりました。本来通級指導教室の待合室に設置し、自由に読めるようにすることが望ましいのですが、限られた冊数の中でも、一人でも多くの会員に伝えられるよう担当者の皆様が工夫してくださり「ことば」誌が活かされている事を感じました。

「ことば」を、個人で購読希望、三役への配布希望支部もありましたので、今後の購読数についても考える機会となりました。

会員の皆様の目に留まるよう、読んでいただけるよう「親の会だより」やHPを有効に活用して、環境づくりを支部・教室へ発信していきたいと思えます。ご協力いただきありがとうございました。

県内のきこえ・ことば・LD等・幼児教室におけるコロナ感染予防対策は？ (令和2年9月現在)

- 1、フェイスシールドは「通級指導教室」の児童・生徒数分確保できていますか。
 - ・子どもが使用している地区もあるが、全部の数の確保はされていない。教育委員会から、または地区研の予算で購入している。
- 2、飛沫防止ガード版を準備されていますか。
 - ・透明な衝立を利用している。(アクリル板等) 教育委員会から、または学校で準備している。
- 3、消毒液は用意されていますか。
 - ・毎日、手洗い、手指消毒と換気を行っている。消毒液は教委から、または学校で準備している。
- 4、担当者はマスクを利用していますか。
 - ・必要に応じて、マウスシールド(発音指導時や、きこえの教室の難聴児への指導では口元を見せることが必要な事から、担当者はマウスシールドを付けることもある)や、マスクを使用している。
 - ・マウスシールドは、教育委員会からいただいている地区もある。



※ 地区によっては、消毒や予防必要グッズの継続的な使用への予算化が厳しいところもあるようです。また、密を避けるため担当者の全県での研修会の実施が難しいところや、通級や相談することに不安を抱いている保護者がいる等々心配事があります。

必要物品については教育委員会準備していただいているところもあるようですが、全市町村に行き渡るよう、各市町村に衛生環境の整備をお願いしましょう。

新型コロナの収束の見通しが立たないなか、学校における感染対策と保護者の理解と協力無しには感染を防ぐことができないと思えます。蔓延を防止する予防に、皆様のご協力をお願いします。